

東海大学付属図書館 第 69 回展示会

レオナルド・ダ・ヴィンチ没後 500 年記念

つながり合う知と美

—甦るレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿—



ご挨拶

東海大学付属図書館 第 69 回展示会に向けて

東海大学付属図書館では、文学研究科、文明研究所との共催により第 69 回展示会を開催することとなりました。今回はルネサンスの天才レオナルド・ダ・ヴィンチの没後 500 年記念に因み、「つながり合う知と美—甦るレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿—」を企画しました。

レオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci: 1452-1519) は生涯に亘って一冊の書物も出版してはいませんが、自らの思想やアイデア、自然や人間についての探求の成果を手稿の形で今日に伝えています。その手稿は、思いついたメモ書き、ラテン語や計算の練習帳、観察の結果のレポート、おそらくは将来の出版を目論んだ清書に近い草稿など、実にさまざまな内容を含んでいます。手稿のなかには散逸して失われてしまったものも多く、現在では 5000 枚程度が残されているとされています。

レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿は鏡文字—文章を鏡に映すと通常の向きになる形—で書かれています。そのことがより一層の神秘性を感じさせますが、現在では彼の知や術を世界の多くの人たちに伝えるために、手稿のほとんどが復刻され、ときには各国の言語に翻訳されています。東海大学付属図書館にはそうした復刻版の多くが所蔵されており、その一端を紹介するのが今回の企画です。

レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿は 500 年の時を超えて現代の我々に何を伝えているのでしょうか。この問いの答えはご覧いただく皆さまの一人お一人にお任せしようと思いますが、お知らせしたいことは、レオナルド・ダ・ヴィンチが活動したのは学問が分化する以前の時代であり、その知や術は総合的学問知—言い換えればすべてが人間の思考や活動の下で総合された“人文知”—であるという点です。

2019 年 12 月 12 日の朝日新聞の記事では、政府はこれまでの「科学技術基本法」の第一条冒頭の「科学技術（人文科学のみに係るものを除く）の振興に関する施策」という部分から「人文科学のみに係るものを除く」という文言を削除する方向を検討していることが伝えられています。学問が細分化し、AI や遺伝子工学などの科学知やそれを応用して具現化する技術が人間存在そのものと密接に関わる現代において、科学技術に対する価値意識、その社会における意味が問われているのではないのでしょうか。それは、根底ではレオナルド・ダ・ヴィンチが希求した人文知の総合—現代的には領域を超えて連関しあう人文学—に通じるものであると感じざるを得ません。

それこそが今回の展示会のもう一つの趣旨でもあります。500 年を超えて伝えられるレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿から、人間の知の未来に対する何らかのメッセージを感じとっていただければ幸いです。

2019 年 12 月

東海大学付属図書館長
東海大学文学研究科長（文明研究所）

中嶋 卓雄
平野 葉一

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

ご挨拶—東海大学付属図書館第 69 回展示会に向けて

東海大学付属図書館長・中嶋卓雄／文学研究科長（文明研究所）・平野葉一

東海大学付属図書館第 69 回展示会 展示趣旨 1

企画・展示責任者 中村朋子

I. レオナルド・ダ・ヴィンチとその手稿 2

II. 『パリ手稿』 6

II-1. 『パリ手稿』の概要

II-2. 『パリ手稿』—各冊子の特徴

II-3. 『パリ手稿 H』とプリニウスの『博物誌』

III. 『ウィンザー紙葉』 20

III-1. 『解剖手稿』

III-2. 『素描集』

IV. 『トリヴルツィオ手稿』・『鳥の飛翔に関する手稿』・

『アランデル手稿』 23

V. 『アトランティコ手稿』・『マドリッド手稿』 25

V-1. 『アトランティコ手稿』

V-2. 『マドリッド手稿』

V-3. 数学研究

VI. レオナルド・ダ・ヴィンチの『絵画論』と遠近法 32

VI-1. 『絵画論』 Libro di Pittura

VI-2. 遠近法

VII. レオナルドとレオナルド・フジタ 36

あとがき—500 年の時を越えて 全体責任者 平野葉一 38

東海大学付属図書館 第 69 回展示会 展示趣旨

レオナルド・ダ・ヴィンチ没後 500 年記念

つながり合う知と美 — 甦るレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿 —

万能の天才と言われるレオナルド・ダ・ヴィンチは、“絵画は科学”と称し、あらゆる自然現象へと眼を向けた。自身を“経験の弟子”と呼び、安易に文献に頼ることを嫌い、みずから自然と向き合おうとしたその姿勢は、今日に残る膨大な「手稿」からもうかがい知ることができる。

「自然は、経験の中にいまだかつて存在したことの無い無限の理法にみちみちている。」

[L. 18 r.]

レオナルドは自然の内奥に潜む“無限の理法”を追い求めた。レオナルドが生涯にわたって書き続けた膨大な量の素描および覚書である「手稿」には、水力学、植物学、解剖学、天文学など、多様な領域に及ぶ研究の痕跡がみられる。また、レオナルドはみずからの経験を重視するのみならず、エウクレイデス、ウィトルウィウス、プリニウスといった古典古代の知からも積極的に学んだ。その飽くなき知への欲求は、根底において共通する普遍法則の追求という意志に貫かれているように感じられる。

「画家は「自然」を師としなければならぬ。」[CA. 141 r. b.]

「画家は万能でなければ賞賛に値しない」[Ash. I. 2 r.]

レオナルドにとって「絵画」とは、その知への情熱の行き着く先であった。その死後にまとめられた「絵画論」のなかで、「画家の心は鏡に似ることを願わねばならぬ」とレオナルドは云う。その作品はレオナルドが認識した“世界”そのものを反映している。そこでは知の領域と美の領域とが深くつながり合い、ひとつの表現として結晶化しているようにみえる。

東海大学付属図書館にはレオナルド・ダ・ヴィンチの「手稿」の複製版が数多く所蔵される。これをたどるとき、私たちはレオナルドの思考のありようを、500 年の時を超えて今なお生き生きと感じることができる。レオナルドにおいては先人の知、みずからの認識、自然の探求、芸術への情熱のすべてが有機的な連関をもち、いわゆる“人文知”を体現している。それは今日の高度に専門分化された知が失った一種の文化性ともいえるものであり、だからこそ、レオナルドは現代の我々をよりいっそう魅了するのではないだろうか。

この展示会では、レオナルドのみならず関連する芸術家・理論家の紹介、レオナルドの作品解説やアイデアの再現展示、さらには「手稿」と並んで東海大学付属図書館が豊富に所蔵する、美術史・科学史・技術史にまたがる貴重な関連文献の展示を通して、レオナルドの知と美の世界をさまざまな「つながり」から多角的に描き出すものである。

これらを通して、レオナルドの壮大な知と美の世界の一端を少しでも感じていただければ幸いである。

企画・展示責任者 中村 朋子

*レオナルドの手稿からの引用は杉浦明平訳『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』（岩波文庫）による。（順に下巻 p13、上巻 p.211, 214 より）

I. レオナルド・ダ・ヴィンチとその手稿

ルネサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci: 1452-1519) は、今日では芸術、科学、技術や発明、解剖などさまざまな分野に精通していたことが知られている。しかし、レオナルドは生涯に亘って一冊の書物も著してはいない。彼の業績、思考法やアイデアは、彼の残した「手稿」の形で今日のわれわれに伝えられている。

レオナルドの「手稿」は、彼自身の手による覚書や草稿であり、さまざまな探求の結果や思いついたアイデア、メモ書き、ラテン語や計算の練習帳、観察の結果のレポート、おそらくは将来の出版を目論んだ清書に近い草稿など、実にさまざまな内容を含んでいる。ただし、その多くが散逸して失われてしまったとされ、現在では 5000 枚程度が残されている。

レオナルドの手稿に特徴的なのは、手稿に記された文章はすべて鏡文字—文章を鏡に映すと通常の向きになる形—で書かれている点である。たとえば、以下は『マドリッド手稿』に収められた蔵書リストの一部であるが、左がレオナルド自身の記述、右がそれを鏡に映したものである。

手稿の記述(鏡文字)

鏡に映したもの



レオナルドの「手稿」は現在 9 部門に分類され、ヨーロッパ各地の図書館、博物館、研究機関等に分散して収蔵されている(「レスター手稿」のみ個人所蔵)。また、これらの手稿に対する複製版が制作され、翻刻、翻訳がなされている(今回の展示も複製版である)。レオナルドは生存中に 1 冊の著作も刊行しなかったため、これらの「手稿」は今日における最も重要なレオナルド研究の資料であり、「我々が共有する貴重な世界遺産」(裾分一弘氏)である。

1. 「アトランティコ手稿」[アンブロジーナ図書館(ミラノ)蔵] (紙葉枚数 1119)
2. 「トリヴルツィオ手稿」[トリヴルツィアーナ図書館(ミラノ)蔵] (紙葉枚数 51)
3. 「鳥の飛翔に関する手稿」[トリノ王立図書館(ミラノ)蔵] (紙葉枚数 20)
4. 「パリ手稿」(A-I, K-M) [フランス学士院図書館(パリ)蔵] (紙葉枚数 1112*全体で)
5. 「解剖手稿」/「ウインザー紙葉」[ウインザー王室図書館(ウインザー)蔵] (紙葉枚数 655*全体で)
6. 「アランデル手稿」[大英博物館(ロンドン)蔵] (紙葉枚数 154)
7. 「フォースター手稿」(I-III) [ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館(ロンドン)蔵] (紙葉枚数 298)
8. 「マドリッド手稿」(I-II) [マドリッド国立図書館(マドリッド)蔵] (紙葉枚数 342)
9. 「レスター手稿」[ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ氏個人蔵] (紙葉枚数 36)

*参考文献: 裾分一弘他編『レオナルド・ダ・ヴィンチ展—直筆ノート「レスター手稿」日本初公開』カタログ, p122.

展示手稿一覧

東海大学付属図書館には「フォースター手稿」および「レスター手稿」を除くすべての「手稿」の複製版、あるいはその日本語訳版が所蔵される。

今回の展示会で紹介する「手稿」の一覧を以下に挙げる。

◆「アトランティコ手稿」(複製)

Il codice atlantico: edizione in facsimile dopo il restauro dell'originale conservato nella Biblioteca ambrosiana di Milano, Firenze: Giunti-Barbèra, c1973-c1975, 12 v. (1119 l.): facsim.; 60 cm.

◆「トリヴルツィオ手稿」(複製・日本語訳版)

日本語訳・解説: 小野健一, 斎藤泰弘, 横山正, 岩波書店, 1984, 154p, 30cm.

◆「鳥の飛翔に関する手稿」(複製・日本語訳版) Il codice sul volo degli uccelli.

原典翻刻: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳・解説: 谷一郎, 小野健一, 斎藤泰弘, 岩波書店, 1979, 94p, 30cm.

◆「パリ手稿」(複製・日本語訳) I manoscritti dell'Institut de France. [A,B,C,D,E,F,G,H,I,K,L,M]

trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni; Il manoscritto A - Il manoscritto M. Japanese ed., Iwanami, 1988-1991. (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci). 36 cm.

(「パリ手稿」, 原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 裾分一弘他, 岩波書店, 1988-1991.)

◆「解剖手稿」(複製・日本語訳版) Corpus of the anatomical studies.

原典翻刻・注解: ケネス・D・キール・カルロ・ベドレッティ, 日本語訳: 裾分一弘他, 日本語版監修: 山田致知(別冊, 223p), 岩波書店, 1982 年, 48cm.

(第 1-2 巻: 本文および注解 第 3 巻: 原本複製ファクシミリ図版 201 枚)

◆レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集 [ウインザー城王室図書館所蔵](複製・日本語訳版)

第 1 輯: 風景、植物および水の習作.

解説目録(カルロ・ベドレッティ編・原典翻刻注解: 裾分一弘他訳) 日本版監修: 裾分一弘, 岩波書店, 1985 年, 図版 70 枚, 45cm.

第 2 輯: 馬および他の動物.

解説目録(カルロ・ベドレッティ編・注解 裾分一弘他訳) 日本版監修: 裾分一弘, 岩波書店, 1990 年, 図版 85 枚, 45cm.

◆「アランデル手稿」(複製版)

Il codice Arundel 263: nella British Library / edizione in facsimile nel riordinamento cronologico dei suoi fascicoli a cura di Carlo Pedretti; trascrizioni e note critiche a cura di Carlo Vecce.

Roma: Giunti, c1998, 2 v.: facsimils. (some col.); 49 cm.

◆「マドリッド手稿」(複製版)

「マドリッド手稿 I / II」, 原典翻刻・解説: ラディスラオ・レティ, 日本語訳: 小野健一, 裾分一弘, 久保尋二他, 岩波書店, 1975 年, 全 6 巻, 24cm.

◆「レオナルド・ダ・ヴィンチおよびレオナルド派素描集」[ウフィツィ美術館所蔵]

I disegni di Leonardo da Vinci e della sua cerchia nel Gabinetto disegni e stampe della Galleria degli Uffizi a Firenze / ordinati e presentati da Carlo Pedretti; catalogo di Gigetta Dall'Regoli. Japanese ed. Tokyo: Iwanami, 1986, 50 plates; 49 cm. (解説: カルロ・ベドレッティ, 解説目録: ジジッタ・ダリ・レーゴリ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 岩波書店, 1986 年, 49cm.)

レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519)の略年表と手稿の成立時期

年	年齢	場所	レオナルドの生涯	作成した作品	手稿の年表
1452			4月15日、ヴィンチ村にてレオナルド誕生		
1465	13歳	フィレンツェ	ヴェロッキオの工房に弟子入り		
1472	20歳		画家組合に画家(マエストロ)として登録		
1473	21歳			《受胎告知》《キリストの洗礼》制作	
1475	23歳			《キリストの洗礼》完成	
1476	24歳				
1479	27歳				
1480	28歳				
1481	29歳				
1482	30歳	ミラノ	ルドヴィコ・スフォルツァに仕える		
1483	31歳		1480年代には現存手稿中最古の「トリヴィルツィオ手稿」を撰したとされる		
1484	32歳				
1485	33歳			《岩窟の聖母》制作開始	
1486	34歳			《白貂を抱く貴婦人》制作開始	
1487	35歳			《岩窟の聖母》完成	
1488	36歳				
1489	37歳				
1490	38歳			《白貂を抱く貴婦人》完成	
1491	39歳				
1492	40歳				
1493	41歳				
1494	42歳				

1495	43歳				
1496	44歳				
1497	45歳				
1498	46歳				
1499	47歳		ルカ・パチョーリとともに学問の決断に参		
1500	48歳	フィレンツェ	ルイXII世によるミラノ占領を受けて、年		
1501	49歳		末が翌年夏々にミラノを退去		
1502	50歳		ヴェネツィアに滞在後、フィレンツェを中		
1503	51歳		心とした活動を開始		
1504	52歳				
1505	53歳		土木技師としてイタリヤ金主を転戦		
1506	54歳				
1507	55歳		この時期、鳥の飛翔の研究		
1508	56歳	ミラノ	フランスのミラノ総督シャルル・ダンボ		
1509	57歳		ワーズからの招聘でミラノへ		
1510	58歳		ルイ12世によって宮廷画家兼技師に任命		
1511	59歳		運河工事に従事		
1512	60歳		解剖学者マカントニ・デッラ・トッレと親交		
1513	61歳	ローマ	《最後の晩餐》制作開始		
1514	62歳				
1515	63歳		《アンギアーリの戦い》《モナリザ》着		
1516	64歳		手		
1517	65歳	フランス・ア	《岩窟の聖母》のレプリカを完成		
1518	66歳	ンボワーズ	《聖アンナと聖母子》制作		
1519	67歳		《聖アンナと聖母子》完成		

II. 『パリ手稿』

II-1. 『パリ手稿』の概要

『パリ手稿』は現在フランス学士院に所蔵されている手稿で、レオナルド・ダ・ヴィンチが使用していた小冊子や紙の束を歴代の所有者が冊子にしたものなど、全体で大小12冊から構成される。アドルフォ・ヴェントゥーリ（Adolfo Venturi）が所有していた際にアルファベットの記号が付され、現在ではその記号を用いてそれぞれが『手稿A』あるいは『パリ手稿A』（日本では後者）などと呼ばれている。以下にその概要を示す。

◇『パリ手稿』に記された内容は、日々の勉強や研究、発見などのメモを記入した雑記帳に類するものと、雑記帳に書かれたことなどをいくつかの主題ごとに整理してまとめたものの2つに大別することができる。雑記帳に分類されるのは、A, B, G, H, I, L, Mの7冊で、清書に分類されるのは、C, D, E, F, Kの5冊である。

◇レオナルドの手稿は、さまざまな経緯をたどって今日に伝えられている。『パリ手稿』も例外ではない。C, D, F, K, Mは一応全体が揃った手稿と見られているが、それ以外の7つの手稿はページに欠落が見られ、レオナルドが所有していた頃からすでに欠落があった。あるいは、所有者が移っていくなかで紛失されてしまったなどと考えられている。とくに手稿A, Bは途中で盗難にあい（グリエルモ・リーブリ（Guglielmo Libri）による）、現在の『アシュバーナム手稿』や『鳥の飛翔に関する手稿』などにまとめられて別の冊子になっている。

◇『パリ手稿』の内容は、レオナルドが長年研究してきた絵画に関連する光学や幾何学、水力学などが収められている。ほかにも、軍事技術や機械工作などレオナルドの才能が垣間見える高度な記述から、自らの無知を悟ったレオナルドが、様々な知識を得るために学んでいたラテン語の勉強、弟子であったサライに対する愚痴や買い物メモまでなどが乱雑に記されている。

『パリ手稿』の移動経緯：

レオナルド本人（アンボワーズ）→フランチェスコ・ダ・メルツィ所蔵（アンボワーズ→ミラノ→ヴァプリオ・ダッダの別荘）→分散→ボンペオ・レオーニ所蔵→分散→アルコナーティ伯爵→アンブロジーアーナ図書館→パリ国立図書館→フランス学士院

その一部→グリエルモ・リーブリによる盗難（Aの第5冊子、Bの終わり、鳥の飛翔に関する手稿）→アシュバーナム卿→フランス学士院

※手稿Dは特殊で、ボンペオ・レオーニが所有していた形跡がない。

メルツィ以降の分散・散逸の過程で不明になったが、アルコナーティ伯爵が所有していた際に、トリヴルツィオ手稿と交換されアンブロジーアーナ図書館へと所蔵されたとされる。

II-2. 『パリ手稿』—各冊子の特徴

「パリ手稿A」(復刻版)

I manoscritti dell'Istituto de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti A), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-. (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), 36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳：アウグスト・マリノーニ、日本語訳：斎藤泰弘、三神弘彦、裾分一弘、他、岩波書店。



年代 1490-1492年 / サイズ 22cm×15cm

紙葉の枚数 本来：8枚×7冊+1枚 114紙葉／現在：8枚×4冊+1枚 63紙葉

（第5冊子は散失、6,7冊子と+1枚は、アシュバーナム手稿に再編）

特徴

- ・外装は、紙入式の装丁で包まれている（レオナルドの死後に装丁）。
- ・図の数が他の手稿に比べて少なく、断片的に書かれている。
- ・レオナルドの手稿は文字や記号を省略して書かれていることが多いが、パリ手稿Aは省略されている形跡がなく、パリ手稿A以降から省略記号を使い始めたと推測される。
- ・手稿に書かれている紙葉番号は順番に書かれている。レオナルドは末尾から冒頭に向かって逆方向に進める習癖を持っていたが、パリ手稿Aなどいくつかは例外である。

内容

- ・手稿Aの主な論題は、絵画と物理学（力学）。しばしば De ponderibus（重量について）という標題で扱われており、力学に関連している。
- ・第1冊子から第2冊子にかけて幾何学に関する記述がされている。

「パリ手稿B」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti B), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1487-1489 年

レオナルドの手稿の中で最も古い

サイズ 23.1cm × 16.7cm

紙葉の枚数 本来: 5 枚 × 10 冊 100 紙葉
(現在: 5 枚 × 9 冊 6 紙葉 84 紙葉, 一部がグリエルモ・リーブリによってアシュバーナム手稿として再編される)

特徴

- ・パリ手稿 A, H, L トリヴルツィオ手稿, フォースター手稿と同様に紙入式の装丁で包まれている (レオナルドの死後に装丁).
- ・科学的研究などを本格的に始める前に書かれたと考えられ, 知識と言語の点から初期のものと推測される.
- ・レオナルドの書いたものは独創的な思考をまとめたものやメモ帳などが主だが, 手稿 B は, 他の書物から書き留めた文章が見られ, それに関する考察なども含まれている.

内容

- ・手稿のうち, 9 紙葉で幾何学が扱われている. 後に書かれる手稿の中にある幾何学と違い, エウクレイデスの幾何学が参照されている形跡がない. また, 数学的な証明を一切記載することなく, 作図の方法を記述するところがあり, 彼自身は証明する必要のない自明の理とされていた実用的な規則を記したとしている.
- ・飛行機械に関する記述があり, 技術上, 実用上の問題に取り組んでいる. しかし, 力学的な問題があり, 実現することはなかった. 後に書かれる手稿にも飛行機械の記述が見られることから, レオナルドは飛行することにこだわりのようなものを持っていたと考えられる.
- ・レオナルドが後に主として研究している流体に関してはほとんど書かれていない.



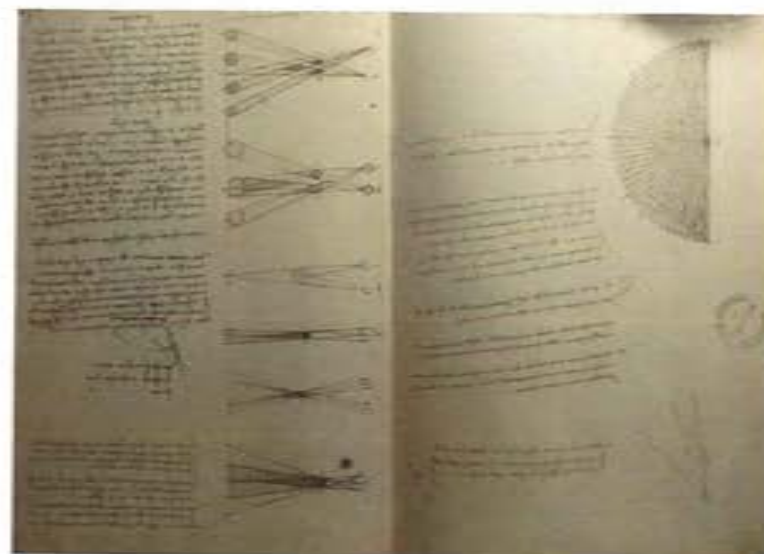
右図: 展示の紙葉には「ヘリコプター」

の構想が描かれている.

「パリ手稿C」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti C), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1490-1491 年

サイズ 30.7cm × 22cm

紙葉の枚数

本来: 8 枚 + 6 枚二つ折り

28 紙葉

現在: 16 枚二つ折り

32 紙葉

特徴

- ・製本された手稿のなかで最も大型の版.
- ・手稿 C には紙葉番号が二つある. レオナルドの自筆番号と, フランチェスコ・メルツィが新たに番号を書き加えたものがある.
- ・メルツィが 2 冊に別れていた紙葉を 1 冊にまとめようと番号を振り直した. 第 2 冊子の 6 枚の二つ折りの紙葉を第 1 冊子の 8 と 9 の間に挿入し, 似た大きさの枚の紙葉が挿入された. 後に, 追加された 3 枚のうちの 1 枚は取り除かれ, 現在の形となった.
- ・レオナルドは, 手稿を逆向きで書き始めているが, 手稿が追加されたことで, 番号がばらばらになってしまったために, 新しく番号を振られたと考えられる.

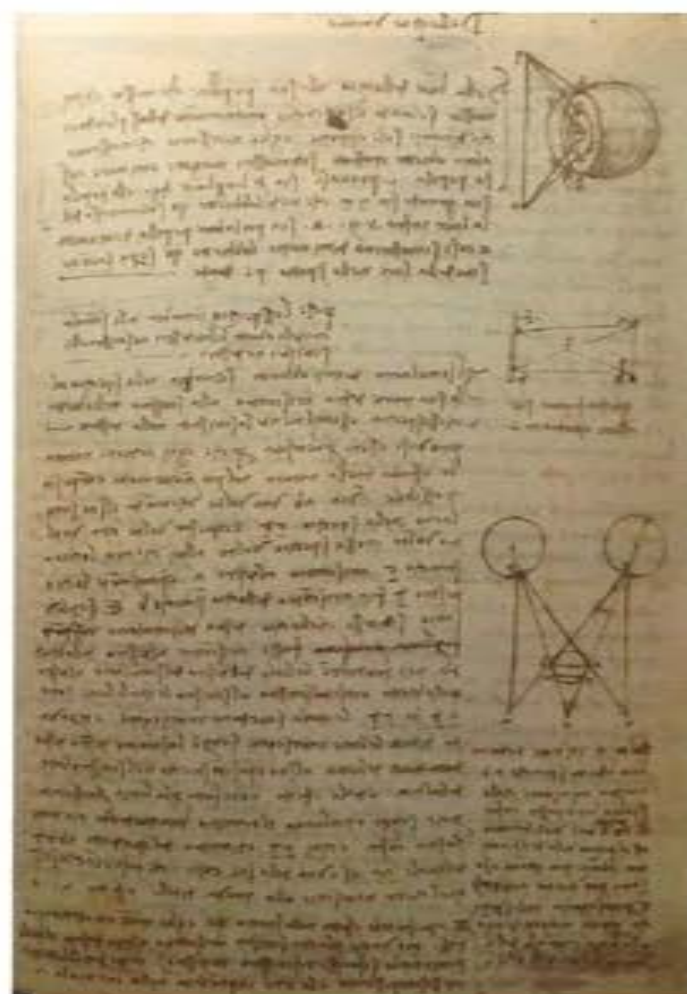
内容

- ・レオナルドが使用していた時期は, 1490 年から 1491 年の間であると考えられる.
- ・最初の記入から, しばらく空白の期間が存在していると考えられ, その後に時間が経ってからか, 整然と書き込まれたもの. その空白部分に弟子のサライが行った悪行や, 衣服費用のメモが記されるなどの内容が見られる.
- ・手稿 C は, 「光と影について」と呼ばれる事があり, レオナルドは, このテーマを非常に重要なものと考えている.
- ・筆跡などがほかの手稿に比べて丁寧であり, 定規とコンパスを使用しており, この手稿が重要視されていたことがわかる. レオナルド自身は書き直すつもりだったと思われる.

「パリ手稿D」(復刻版)

I manoscritti dell'Institut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti D), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳:アウグスト・マリノーニ, 日本語訳:斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1508 年頃

サイズ 22.8cm × 16.2cm

紙葉の枚数

本文:5 枚 10 紙葉

(空白ページ:4 枚 8 紙葉)

特徴

- ・それぞれのページの行数が 38 行から 49 行までで、図と文章が規則的に書かれている(例外的に最初のページは 17 行だけ書かれており、余白のまま残されている)。
- ・各ページの右側 3 分の 1 ほどのスペースは図もしくは注釈が書かれている。図は全部で 61 点ある。
- ・眼に関するテーマの手稿本を作成するために作られたが、内容が未定であったために、本として閉じ合わせる前に紙を足していった(空白(遊び)の 4 枚にも記入される予定だった可能性が高い)。

内容

- ・主な内容は、眼の構造とそれによる光の屈折である。
- ・レオナルド以前の眼に関する研究と、レオナルドが記した研究結果は大きく異なっており、眼の機能を力学的に捉えようとしたと考えられる。
- ・レオナルドは、動物や人間の眼の解剖を行って観察をしたが、現在提唱されている眼の構造とは異なっている。

「パリ手稿E」(復刻版)

I manoscritti dell'Institut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti E), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳:アウグスト・マリノーニ, 日本語訳:斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1513-1515 年

サイズ 14.5cm × 10cm

紙葉の枚数 本来は 96 紙葉

現在は 80 紙葉

特徴

- ・リーブリ伯爵の手によって 80 紙葉まで減っている。
- ・レオナルドの晩年の手稿で、フランスに旅立つ前の数年の間に書かれた。

内容

- ・現代の静力学に属するもの。鳥の飛翔に関する研究も多く見られる。絵画、幾何学、運動、水についての記入も見られる。

「パリ手稿F」(復刻版)

I manoscritti dell'Institut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti F), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳:アウグスト・マリノーニ, 日本語訳:斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1508 年頃(1508 年 9 月 12 日ミ

ラノにて執筆開始と記述があり、

また、1508 年 10 月…日の記述がある)

サイズ 14.5cm × 10cm

紙葉の枚数 8 枚 × 6 冊 96 紙葉

欠落なし

(次ページに続く)

特徴

- ・パリ手稿 LM.E.G とともにほぼ手つかずの状態でポンベオ＝レオーニの手に渡ったもの。
- ・ほぼ完全な状態で残され、かつ表紙がついているため、記号や数字などを後から記入するのをためらったと考えられる。
- ・数々の記録をまとめたもの。思いつきのメモ書きと推測される箇所が 18 箇所見られる。
- ・手稿の随所に他のページへと誘導する記述がある。
(例)「紙葉 23 に進むと水路を空にする方法を見いだせるだろう」などの記述。
- ・古代の研究者に対する非難への反論を記している。レオナルドが先人に対しての尊敬の念を抱いていたと考えられる(ただし、プラトンやエピクロスに対しては容赦なく非難している)。

内容

- ・レオナルドが長年考えていた水に関する研究をまとめるために執筆されたと考えられる。
- ・水に関する記述の間に、新たに光学について書かれている部分がある。
- ・途中に古代ギリシアのデロス問題が挿入されている。
- ・天体の考察、宇宙論や工学技術について記述も見られる。

「パリ手稿G」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti G), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), 36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 裾分一弘, 他, 岩波書店。



年代 1510 年 9 月 26 日以前-1515 年 1 月 9 日前後
サイズ 記載なし
紙葉の枚数 8 枚×6 冊-1 枚と半分 93 紙葉

特徴

- ・レオナルドが手にしていた状態のまま現在まで伝えられた手稿。
- ・厚紙の表紙があり、更に、紙のカバーで覆われている。

内容

- ・植物の形態などの主題が書かれているほか、しばしばレオナルドがテーマとして扱っている水や、重さ、空気の運動について書かれている。
- ・植物学について書かれているところには、植物のスケッチや観察の結果以外にも、絵画にどのように反映すべきなのかという視点によって書かれたメモがある。
- ・幾何学にも多くのページが割かれている。幾何学に関しては、パリ手稿G以前に記入された理論に対し、具体的な数字を用いて実践的に記されている。手稿 G では、理論と実践の 2 つの方向を目指して書かれた様子がある。

「パリ手稿I」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti I), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), 36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 裾分一弘, 他, 岩波書店。



年代 1497-1499 年
サイズ 10.0cm × 7.0cm
紙葉の枚数
II: 8 枚×3 冊 48 紙葉
III: 8 枚×6 冊-5 紙葉 91 紙葉

左図「パリ手稿I」の概観と、活字版

特徴

- ・II と III と呼ばれる 2 冊のレオナルドの手稿を 1 巻にまとめたもの。2 冊をまとめて装丁したのは、ポンベオ＝レオーニが行ったとされる。
- ・II は、5 紙葉が抜き取られているが、レオナルドが所有していた当時は全て揃っていた。
- ・パリ手稿 I は、主に雑記帳として使用されており、至るところにメモが記されている。

内容

- ・内容は、雑記帳として使用されているため、多岐にわたっている。
- ・II の 1 冊のほとんどはエウクレイデス幾何学に用いられている。それ以前の手稿 M には命題 1~43 までが扱われているため、その続きであると考えられる。
- ・III は、冒頭から末尾にかけて戻る形で記載が進行しており、主に水に関する記述が見られる。
- ・物体の運動に関する項目や、ラテン語の文法の練習をしているところも見られる。
- ・ラテン語の練習に混じって、レオナルドの生活が窺える記載がされている。また、予言が記されている紙葉もある。



「パリ手稿 K」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti K), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.



原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 裾分一弘, 他, 岩波書店.

年代 1503-1505 年

サイズ K: 9.4-9.6cm × 6.4-6.7cm,

Kii: 9.6cm × 6.2cm,

Kiii: 9.6cm × 6.3cm

紙葉の枚数 K: 8 枚 × 3 冊 48 紙葉,

Kii: 8 枚 × 2 冊 32 紙葉,

Kiii: 8 枚 × 3 冊 48 紙葉

特徴

- ・パリ手稿 K は赤い革で装丁された 3 冊の冊子から構成され, それぞれの表裏の表紙に錦の装丁を施されている。
- ・Ki に書かれた紙葉番号は 18 と 19 の間が飛ばされて, 後に 18bis という番号を追加されている。
- ・Kii は誤って折り返された状態で装丁されてしまったため紙葉番号が 15 から始まっている。

内容

- ・手稿 M, I にも記されているエウクレイデスの『原論』についてが再度扱われている。
- ・また, 円の求積という最終的な目標をもった曲線図形と直線図形の等積の問題も扱われている。
- ・ピラミッドや三角形の中心, 重心についても論じられている。



「パリ手稿 L」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti L), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 裾分一弘, 他, 岩波書店.

(次ページに続く)



年代 1497 年-1502 年

サイズ 10.9cm × 7.2cm

紙葉の枚数 8 枚 × 6 冊 94 紙葉
(表表紙と 1 紙葉, 4, 5 紙葉の間が欠落)

特徴

- ・8 枚の紙を 2 つ折りにして, 16 枚を 1 束として, その 6 束から手稿が構成されている。
- ・紙葉 1 が表表紙の内側に糊付けされていること, 紙葉 4 と紙葉 5 の間の一枚が切り取られているため, 紙葉番号が 94 で終わっている。
- ・濃青色の厚紙の表紙は, もともと表紙を包む紙によって保護されていたが, 歳月とともに摩耗して消滅しかけている。
- ・当初から冊子の状態で使用され, 主にメモを残すために長期に渡って使用された。

内容

- ・この手稿にはロマーニャ地方, マルケ地方における城塞の改修のメモがかなり含まれている。
- ・周辺を描いたスケッチや, 地図などは測量に基づいて作成されている。
- ・レオナルドには珍しく, 幾何学の命題が扱われていない。代わりに, 算術に関するメモが書かれている(1496 年にルカ・パチョーリと出会ったことで数学的な知識を修得したことが窺える)。

◇「パリ手稿」(復刻版)には, 手稿の鏡文字を活字におこした版と日本語訳が添えられている。



「パリ手稿」の日本語訳

「パリ手稿 I」: 三神弘彦

「パリ手稿 M」: 裾分一弘

「パリ手稿 K」: 日高健一郎,
三神弘彦

「パリ手稿 M」(復刻版)

I manoscritti dell'Istitut de France / Leonardo da Vinci ; trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti M), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), 36 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他. 岩波書店.



年代 1496-1500 年

サイズ 9.6cm × 6.7cm

紙葉の枚数 8 枚 × 5 冊 + 5 枚 + 3 枚 94 紙葉

特徴

- ・装丁は二つ折りにした 8 枚を 1 冊として、その 5 冊の外に二つの部分に分けられた 5 枚と 3 枚が付加されている。表表紙と裏表紙が糊付けされており、それらは紙葉番号に数えられていない。
- ・手稿 M は、ペン書きによる走り書きのメモ帳である。
- ・他の手稿はボンベオ・レオーニによって紙葉番号が記入されているが、手稿 M に関しては他の人物が記入したことが確定している。



内容

- ・レオナルドの手稿は、概して後ろから前に向かって逆方向に記述されているが、手稿 M は一部が順に進んでいるなど、バラバラに記入されている。
- ・紙葉 1-36 までは、エウクレイデスの『原論』の順を追って記入されている。友人のルカ・パチョーリの『神聖比例』の末尾に添付される図版の制作のために (p.31 参照)、エウクレイデスの数学の知識が必要だったために、エウクレイデスの原論を研究していると考えられる。
- ・幾何学は手稿の 5 分の 2 を占めており、それ以外のテーマは、物理学を主として重力に関する内容と、物体の抵抗、液体の落下についてが記述されている。

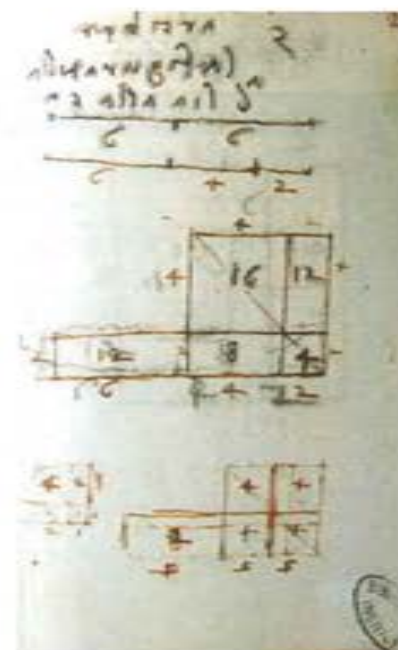
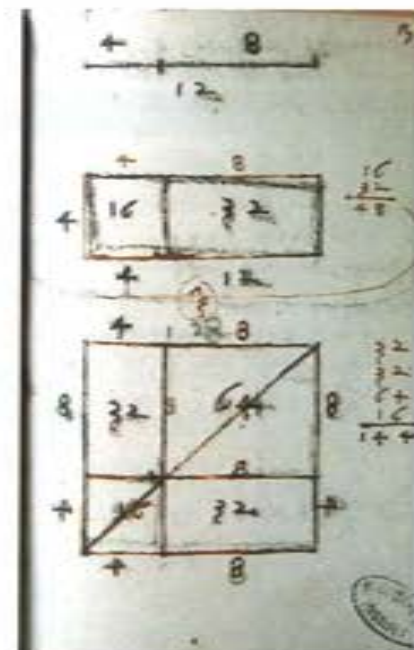
◇「パリ手稿」に記載された数学的記述



「パリ手稿 M」に記述されたエウクレイデスの『原論』第 I 巻の命題

左: 「パリ手稿 M」の表紙裏の紙葉

右: 「パリ手稿 M」紙葉 15Recto, 二等辺三角形に関する議論



「パリ手稿 K」に記述されたエウクレイデスの『原論』第 II 巻の命題

レオナルドは数字に関しては鏡文字ではなく通常の向きで記述している。

II-3.『パリ手稿 H』とプリニウスの『博物誌』

◇『パリ手稿 H』にはレオナルドによる「動物寓話」が収められている(手稿 H)。すなわち、レオナルドは動物や鳥類、爬虫類のいくつかを取り上げ、その特徴について書き記している。しかし、レオナルドがそこに記したすべての動物について実際に観察したかどうかは確かではない。むしろ、レオナルドはプリニウスの『博物誌』などを読むことで、それぞれの動物についての内容を整理し、その特徴を記述したと思われる。あるいは、この『手稿 H』にはラテン語の練習のような内容も含まれており、レオナルドがラテン語の修得の目的も含めて、古典書を読んで整理したとも考えられる。

◇今回の展示では、レオナルドの動物寓話の内容をプリニウス『博物誌』と比較する。以下にその例として「イタチ」と「トカゲ」の説明を示す。

動物	レオナルド『パリ手稿 H』	プリニウス『博物誌』
トカゲ	紙葉 27Rect これは蛇と戦うとき野薔薇を食べ、毒に対する抵抗力をつけておく。	Ⅷ巻 28 章 蛇に咬まれた際とくに有効な一種の草があって、トカゲはヘビと戦って傷ついたときはいつでもそれで治す。
イタチ	紙葉 27Rect これは鼠を獲りに行くとき予めヘンルーダを食べておく。	XX 巻 13 章 イタチはネズミ狩で戦った後はヘンルーダを食べて治す。

◇レオナルド『パリ手稿 H』とプリニウス『博物誌』対応表

動物	手稿 H	博物誌	動物	手稿 H	博物誌
ゾウ	19R-20V	Ⅷ-13	ヤリヘビ	25R	—
竜	21R-21V	—	エジプトコブラ	25R	Ⅷ-35
ヘビ	21R	Ⅷ-14	エジプトマングース	25V	Ⅷ-36
ボア	21R-21V	Ⅷ-14	ワニ	25V-26R	Ⅷ-37
ボナスス	22R	Ⅷ-15	イルカ	26R	Ⅸ-7
雄ライオン	22R	Ⅷ-16	カバ	26V	Ⅷ-40
ライオン	22V	Ⅷ-17-20	トキ	26V	X-40
アフリカ豹	22V-23R	Ⅷ-24	シカ	26V	Ⅷ-50
ラクダ	23R	Ⅷ-26	ツバメ	27R	X-34
トラ	23V-24R	Ⅷ-25	イノシシ	27R	Ⅷ-78
カトブレバス	24R	Ⅷ-32	ヘビ	27R	Ⅷ-35
バジリスク	24R-24V	Ⅷ-33	カメレオン	27V	Ⅷ-51
ツノヘビ	24V	Ⅷ-35	カラス	27V	X-14
アンビバエナ	25R	—	シロテン	48V	—

「パリ手稿 H」(復刻版)

I manoscritti dell'Institut de France / Leonardo da Vinci : trascrizione diplomatica e critica di Augusto Marinoni. (Il manoscritti H), Japanese ed., Tokyo: Iwanami, 1988-, (Edizione nazionale dei manoscritti e dei disegni di Leonardo da Vinci), .38 cm.

原典翻刻・注記・原典イタリア語訳: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳: 斎藤泰弘, 三神弘彦, 堀分一弘, 他, 岩波書店.



年代 1493-1495 年

サイズ 12.8cm × 9.0cm

紙葉の枚数 Hi, HiI, HiII に分かれており、
いずれも 8 枚 × 3 冊 48 紙葉
(HiI に 2 枚欠けあり)
全 142 紙葉

特徴

- ・レオナルドのメモ帳 3 冊をまとめた 1 冊で、革でできた表紙によって装丁。
- ・大きさが小さいことから、レオナルドがポケットに入れて持ち歩き、赤、もしくは黒のチョークでメモを書き加えていた。

・レオナルドの文章は鏡文字で記されており、革の装丁をする段階で、天地が逆に綴じられてしまった。レオナルドにはしばしば空白や、逆さに書くなどの習癖があったが、そのために天地逆に装丁されてしまった原因と考えられる。

内容

- ・Hi は、水に関する記述と、動物寓話が記されている。動物寓話は、机に向かって編纂されたと考えられる。それぞれの本を調べながら、項目を抜き出し要約したものである。
- ・工学など、レオナルドの軍事技師としての一面が見られる(運河工事、水の運動やトンネル)。
- ・ラテン語の文法の練習のページも見られる。

◇プリニウスの『博物誌』

G. Plinii Secvndi Natvrae historiarum libri XXXVII E
castigationibus Hermolai Barbari : Qvam
emendatissime editi / Additus est ad maiorem
studiosorum commoditatem, index Ioannis
Camertis Minoritani, quo Plinius ipse totus breui
mora temporis edisci potest

ガイウス・プリニウス・セクンドゥス(Gaius Plinius Secundus: AD 23-79)はローマの博物学者(大プリニウス)。本書は動物学や植物学から天文学、鉱物学、医学にまでわたる広範な内容を含む、ルネサンスまでの貴重な博物学書。



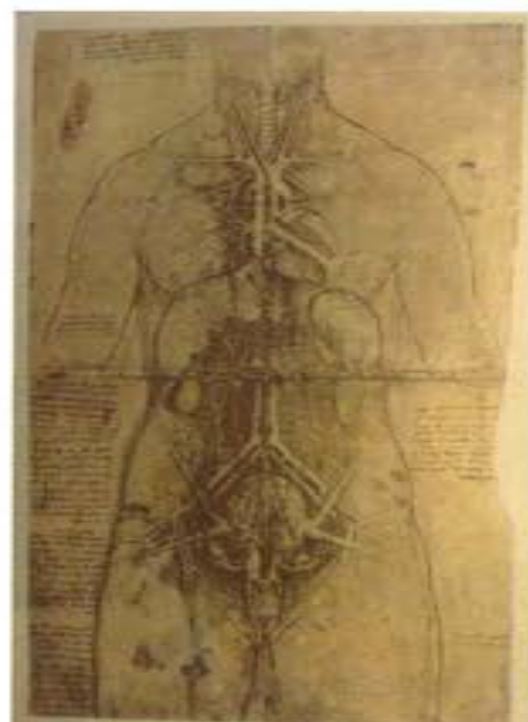
Ⅲ. 『ウィンザー紙葉』

◇『ウィンザー紙葉』とは、ウィンザー王室図書館が所蔵する『解剖手稿』を含むレオナルドの手稿・素描の総称である。レオナルドの「手稿」は相続者であった弟子のメルツィ (Francesco da Melzi, 1493-1570) の手を離れた後、16世紀末には、その多くがミケランジェロの弟子であった彫刻家ポンペオ・レオーニ (Pompeo Leoni, 1533-1608) の所有となっていた。レオーニはレオナルドの手稿を分類・編集し、655点に及ぶレオナルドの素描・手稿を234紙葉の台紙 (48×35cm) に貼り付けて書物に仕立てた。これを切り離して装丁し直す作業は19世紀末に開始され、1994年まで続いた。

◇この手稿はテーマに従って、解剖学、風景と植物及び水の研究、馬とその他の動物、人物習作、その他、に分類される。東海大学付属図書館にはキール・ペドレッティ版『解剖手稿』 (Leonardo da Vinci, Corpus of the anatomical studies in the Collection of Her Majesty the Queen at Windsor Castle, edited by Kenneth D. Keele and Carlo Pedretti, 3 volumes, London, Johnson Reprint, 1979-1980.)、ペドレッティ版『レオナルド・ダ・ヴィンチ素描集』 (Leonardo da Vinci, Landscapes, Plants and water studies in the Collection of Her Majesty the Queen at Windsor Castle, edited by Carlo Pedretti, London, Johnson Reprint, 1982-) の各日本語版が所蔵されている。このうち後者は全4輯の刊行が予定されているが、未だ第2輯までの出版に留まる。

Ⅲ-1. 『解剖手稿』

『ウィンザー紙葉』のなかで最も多くを占めるのは解剖学に関する手稿・素描である。これは約200枚に及び、レオナルドのおよそ30年に亘る解剖研究の成果を示している。



「女性の血管系および腹部・胸部器官の図」
1508年頃
("View of the Organs of the Chest and Abdomen
and of the Vascular System of a Woman")
476×332mm
Windsor Castle, Royal Library
(RL 12281r)



「心臓及びその血管の解剖素描」
1513年頃
("Anatomical Drawings of the Heart
and its Blood Vessels")
288×413mm
Windsor Castle, Royal Library
(RL 19073r- RL 19074v)



「横から見た矢状縫合部における人間の頭頂骨の解剖素描」1489年頃
("Anatomical Drawings of the Human Skull in
Sagittal Section, Seen from the Side")
188×134mm
Windsor Castle, Royal Library
(RL 19057r)

Ⅲ-2. 『素描集』

『素描集』には多様なテーマの作品が収録される。風景と植物の素描は70枚ほどで、初期の素描から、山から植物を描いた素描、水の研究、有名な大洪水の連作などが含まれる。

馬とその他の動物の素描は70枚あり、馬の素描としては『東方三博士の礼拝』のための初期習作をはじめ、騎馬像の習作や『アンギアーリの戦い』のための習作が含まれる。人物習作に分類されるのはほぼ100枚で、『岩窟の聖母』や『最後の晩餐』のための習作のほか、カリカチュアなども含まれる。その他としては、言葉遊びやエンブレム、寓意画、さらに20枚ほどの地図に加え、水力学、建築、工学に関するメモや素描など、雑多なテーマが含まれている。



「オオアマナとアネモネの図」
("Star of Bethlehem and Anemones")
1506-1508 年頃
198 × 160mm
Windsor Castle, Royal Library (RL 12424r)



「猫と竜、また他の動物たちの素描」
("Sheet of Studies of Cats, a Dragon and other Animals") 1513-1515 年頃
270 × 210mm
Windsor Castle, Royal Library (RL 12363r)



「障害物を越える水の流れと渦の素描」
("Sheet of Studies of Water Flowing past Obstacles and Sketch of Whirlpool")
1508-1510 年頃, 290 × 202mm
Windsor Castle, Royal Library (RL 12660v)



「露出した岩石に座る老人の横顔。および水の習作」
("Old man seated on a Rocky Outcrop, Seen in Profile to the Right, with Water studies")
1510-1513 年頃, 152 × 213mm
Windsor Castle, Royal Library (RL 12579r)

IV. 『トリヴルツィオ手稿』・『鳥の飛翔に関する手稿』・『アランデル手稿』

『トリヴルツィオ手稿』

◇ボンベオ・レオーニの死後、ガレアツォ＝アルコナーティ伯爵の所有を経て、1750 年頃トリヴルツィオ侯の手に渡り、トリヴルツィオ図書館に入った。最初期の手稿で、レオナルドの第一次ミラノ時代(1487~1490 年頃)に書かれ、51 紙葉から成る。ミラノ大聖堂のティブーリオ(円蓋を覆う建造物)の設計に関するスケッチや、軍事工学、カリカチュアなどが見られる。特に興味深いのは、ラテン語の語彙を取得するために様々な書物から抜き書きした単語リストである。

Il Codice di Leonardo da Vinci, nella Biblioteca Trivulziana di Milano, trascrizione diplomatica e critica di Anna Maria Brizio, Firenze, Giunti Barbèra, 1980. (日本語訳版/翻訳・解説: 小野健一, 斎藤泰弘, 横山正, 岩波書店, 1984. 154p, 30cm.) [(左) 5r, (右) 39r].



『鳥の飛翔に関する手稿』

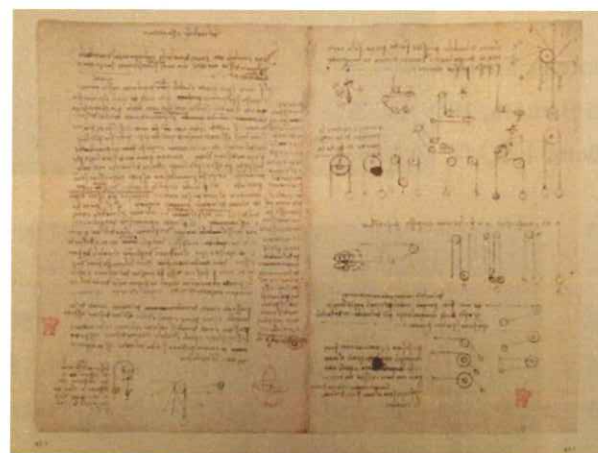
◇レオナルドは第二次フィレンツェ時代にあたる 1505 年に鳥の飛翔を研究した。現在トリノ王立図書館にはその記録である『鳥の飛翔に関する手稿』, 全 20 紙葉が収められている。



Il Codice sul volo degli uccelli, nella Biblioteca Reale di Torino, a cura di Augusto Marinoni, Firenze, Giunti Barbèra, 1979.
日本語訳版/原典翻刻: アウグスト・マリノーニ, 日本語訳・解説: 谷一郎, 小野健一, 斎藤泰弘, 岩波書店, 1979. 94p, 30cm.

『アランデル手稿』

◇大英博物館所蔵の手稿で、ポンペオ・レオーニの所有していたものとされる。断片の寄せ集めではなく、いくつかのまとまった折り紙葉の束から成る。156紙葉あるが、うち2紙葉はレオナルド以外の手による。1630年代にアランデル卿トーマス・ハワードが購入した手稿コレクションで、書かれた年代は1478～1518年である。
主要なテーマは数学で、他に物理学、工学、天文学、建築などに関するさまざまな考察や素描が含まれる。また、日付が書かれた個人的な覚書などもある。



Il Codice Arundel 263, nella British Library, edizione in facsimile nel riordinamento cronologico dei suoi fascicoli, a cura di Carlo Pedretti, trascrizioni e note critiche, a cura di Carlo Vecce, Firenze, Giunti, 1998. 49cm. [43v-42r]

V. 『アトランティコ手稿』・『マドリッド手稿』

V-1. 『アトランティコ手稿』

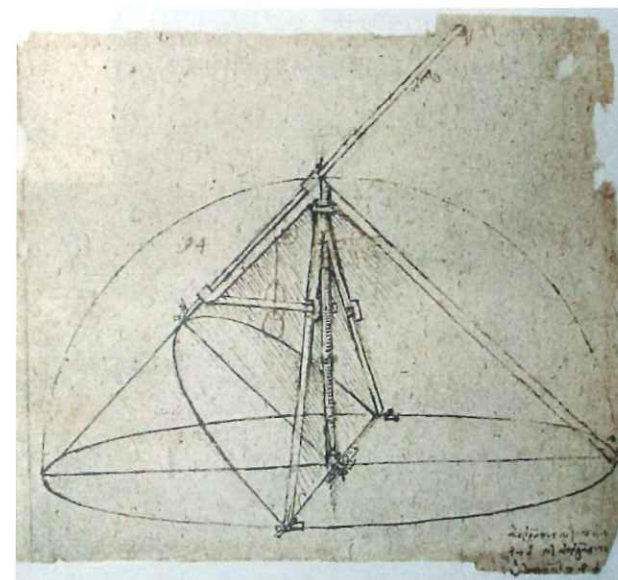
現在、ミラノのアンブロジアーナ図書館に所蔵されている『アトランティコ手稿』は、レオナルド・ダ・ヴィンチの最大の手稿である。1478年～1518年頃の間のデッサンやメモが収められ、その内容は機械などの工学や技術、建築や土木工学、幾何学をはじめとする数学、天文学や物理学、植物学、軍事技術など多岐にわたる。そのなかには、古代の技術を模倣したりそれから着想を得たデッサンが含まれている。今回の展示では、とくに古代ギリシアの数学の内容を具現化した紙葉を紹介する。

「アトランティコ手稿」(復刻版)

Il codice atlantico : edizione in facsimile dopo il restauro dell'originale conservato nella Biblioteca ambrosiana di Milano, Firenze : Giunti-Barbèra, c1973-c1975, 12 v. (1119 l.) : facsimis ; 60 cm

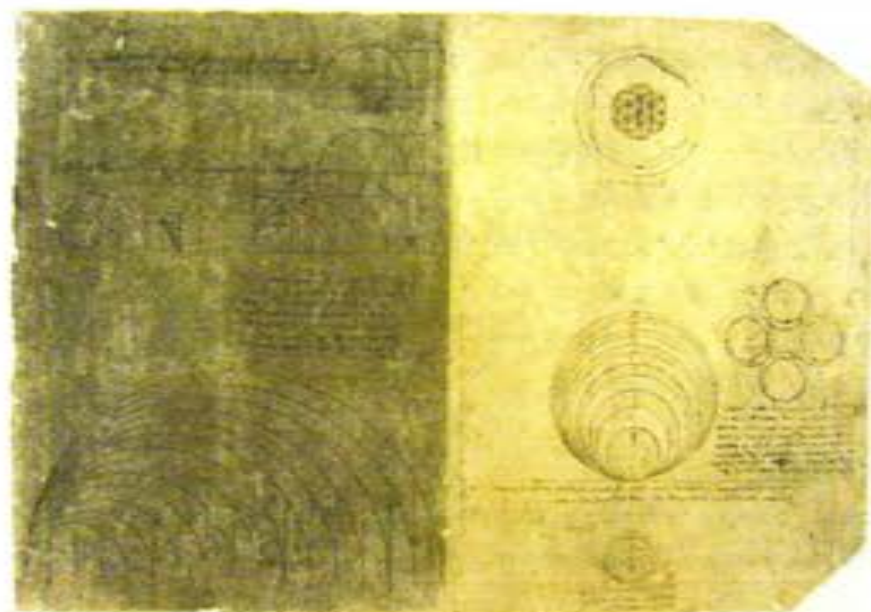
- ・ポンペオ・レオーニが紙葉・断片合わせて1750点を401紙葉の大型サイズの台紙(65×44)に貼り合わせて書物に仕立てたもの。1960-70年代の修復作業で、順番は変えずに12巻本にまとめられたが、現在は、一枚ずつ切り離して1119枚の紙葉として保存されている。
- ・レオーニは、主に技術的、科学的な素描やノートを選んで編集した。その内容は絵画、彫刻から、幾何学、遠近法、光学、天文学、数学、力学、工学、兵器、建築、都市計画など多岐にわたる。
- ・各紙葉の大きさもさまざまで、書かれた時期はレオナルドの生涯にわたり、1478年から1519年に亡くなるまでの約40年間にまたがっている。

◇放物線作図器



『アトランティコ手稿』
第XII巻 紙葉1093Recto
円錐と母線に平行な平面の交線が
放物線となることに基づいたデッサン

◇面積が常に等しい弓形の作図(右)とそのための平方根の作図(左)

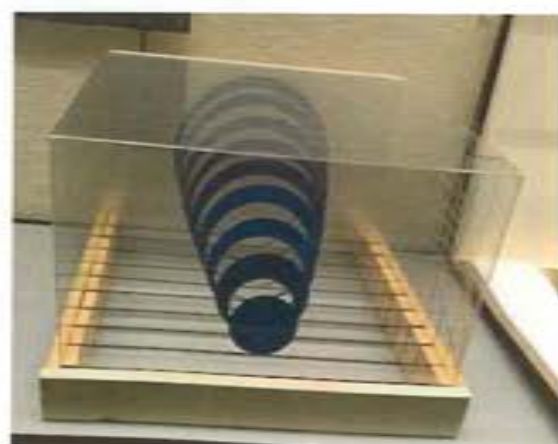


『アトランティコ手稿』第Ⅶ巻 紙葉 569 Recto

- ・右図:最初の小円と面積が常に等しくなるように順次三日月形を作図すること。
- ・左図:三日月形を描くために必要な円の半径は、最初の小円の半径を1とすると、順次 $\sqrt{2}$, $\sqrt{3}$, ...となる。そのための半円を利用した作図。



レオナルドのデッサンを具現化した
放物線作図器(平野研究室作成)



レオナルドによる三日月形図形のデッサンを
具現化した模型(平野研究室作成)

V-2. 『マドリッド手稿』

『マドリッド手稿』とは20世紀に偶然にマドリッドの国立図書館で発見された手稿である。二巻本であり、「マドリッド手稿Ⅰ」(184紙葉)は主に機械工学的な内容から成り、「アトランティコ手稿」,「パリ手稿A, H」および「フォースター手稿」から清書された部分が多い。「マドリッド手稿Ⅱ」(158紙葉)は雑記帳に近いものとされ、内容は地図や計算、折々の覚書などさまざまである。

「マドリッド手稿」(復刻版)

Tratado de estatica y mechanica en Italiano
Codices Madrid/Leonardo da Vinci
原典翻刻・解題:ラディスラオ・レティ,
日本語訳:小野健一, 堀分一弘, 久保尋二他
岩波書店, 1975年, 全6巻, 24cm
(手稿の復刻版は第Ⅰ巻・第Ⅱ巻)



◇レオナルドの蔵書リスト



〔手稿Ⅱ〕紙葉 2Verso-3Recto

「箱詰めにして残して書物の覚書」と題されたレオナルドの蔵書リスト。レオナルドが1503年から1504年に書き記したとされる。古代ギリシアやローマの書物をもっていたこと(リスト中にはユークリッド(エウクレイデス)「原論」などいくつかの数学書も見出せる。



【手稿Ⅱ 紙葉 112Recto】
円の方角化(円と面積が等しい直線
図形を求めること)に関する検討。
この紙葉の中央には

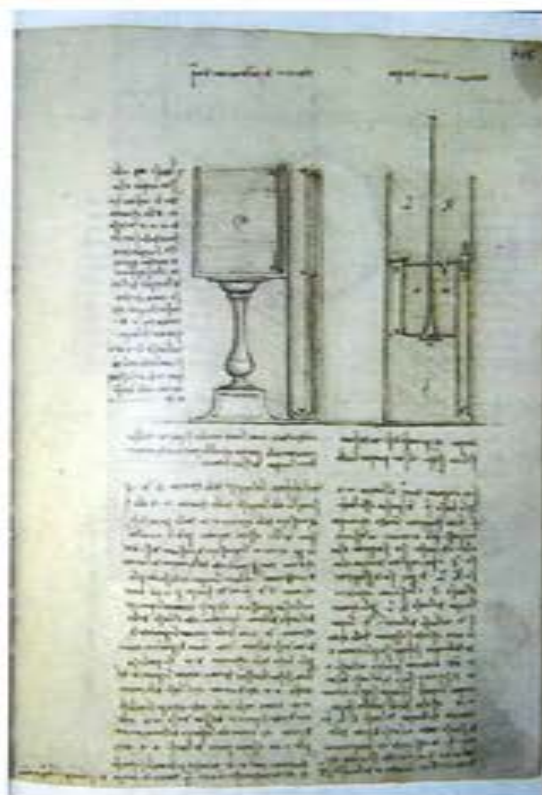
「聖アンドレアの夜、灯火も、夜も、
また書いてきた紙も尽きころ、
ついに円の求積法を発見した。
時間の最後に、結論を得た。」

というレオナルドの心情が記されてい
る。(ただし、実際にはこの結論は得ら
れてはいなかった。

◇レオナルドと古代の知

レオナルド・ダ・ヴィンチさまざまなアイデアの中には、古代ギリシアや古代ローマで考案されたものを
レオナルド自身が学び、さらに自身のアイデアを加えてデッサンとして描いたものも数多い。『アトランティ
コ手稿』の項で示した2点の数学的なデッサンもその例である。

以下ではその例として、“ヘロンの噴水”と“アルキメデスの水汲みポンプ”のデッサンを紹介する。



【手稿Ⅰ 紙葉 115Recto】
・左側はサイフンの原理を示したものの図
・右側は古代ローマの水力学に見られる
噴水(通称“ヘロンの噴水”)の模式図

【参考】ヘロンの噴水の具現化モデル
(平野研究室作成)



◇レオナルドとウィトルウィウス

古代ローマの建築家ウィトルウィウスの『建築書』(1世紀頃)はルネサンスの芸術家に大きな影響
を与えた。レオナルドもまたこれを熱心に研究し、その成果はアカデミア美術館所蔵の素描作品『ウィ
トルウィウスの人体図』(1490年頃)などに結実している。

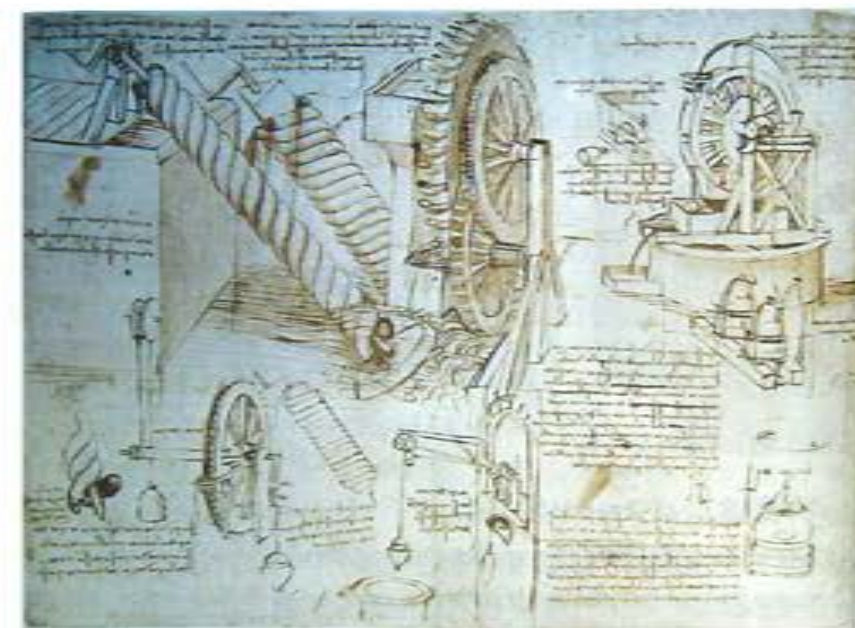
『アトランティコ手稿』中には回転するネジを利用した水汲みポンプ(通称“アルキメデス・ポンプ”)の
スケッチが見られるが(下の図)、このアイデアも『建築書』に登場する。以下の上の図がウィトルウィ
ウスの『建築書』に示された“アルキメデス・ポンプ”。レオナルドは、ネジ状のポンプに対し、軸にパイ
プを巻きつけ、さらに三重にして効率をよくするアイデアを考案している。



ウィトルウィウス『建築書』(1511年、ラテン語)
M. Vitruvius per locvndvm solito castigatio
factvs cum figvris et tabvla, vt iam legi et intelligi
possit. [Joannis de Tridino alias Tacuino], 1511

(注)アルキメデスは紀元前287頃から212年頃
まで浮力、重力などを研究したギリシアの数
学者である。

アルキメデスの水汲みポンプは傾斜した太
い筒に螺旋状の細い筒をつけ(内部をネジ状
にして)回転させながら、連続的に水を汲み
上げる仕組みになっている。筒を回転させる
ことで水がネジ状の溝上がる。



『アトランティコ手稿』第Ⅰ巻、紙葉 26Verso
紙葉の左上にアルキメデスが考案したとされる「水汲みポンプ」が見られる。

V-3. 数学研究

レオナルド・ダ・ヴィンチは数学研究も行っている。しかし、それは数学者として当時の新しい数学を見出そうというのではなく、ユークリッド（エウクレイデス）『原論』など古代の数学を学ぼうとしていたようである。おそらくは1490年代後半のミラノでの修道士で数学者のルカ・パチョーリとの出会いがレオナルドの数学への関心を導いたと推察される。

当時の興味深いテーマは、今日“黄金比”と呼ばれる比の問題で、当時は“神聖なる比”と呼ばれていた（この命名にもレオナルドが関わっていると考えられる）。“黄金比”は古代ギリシア以来、正五角形の一边と対角線の比として捉えられてきた。五種類の正多面体（正四面体、正六面体、正八面体、正十二面体、正二十面体）のうち、12個の正五角形で形作られる正十二面体もその研究の対象であった。正多面体論はルカ・パチョーリの師であるピエロ・デラ・フランチェスカの研究もあり、この一連の研究のなかでレオナルドも“神聖なる比”に関心をもっていたと考えられる。

◇レオナルドとルカ・パチョーリ

当時は古代ギリシアの幾何学書（幾何学以外も含む）であるユークリッド『原論』がギリシア語、アラビア語からラテン語に翻訳された。ルカ・パチョーリもこの書にはかなり精通しており、1494年の著作（『Summa』でも扱っている。レオナルドの『パリ手稿』の随所に幾何学研究の記述が残されているが、これはルカ・パチョーリから学んだものと考えるのが妥当である。ルカ・パチョーリは1509年にユークリッド『原論』を出版している。今回は、東海大学付属図書館が所蔵するその原典を展示している。



右図：タイトル・ページ
左図：『原論』第Ⅰ巻、定義

ユークリッド『原論』パチョーリ版

Euclidis Megarensis, philosophi acutissimi mathematicorumque omnium sine controuersia principis opera Campano interprete fidissimo tralata Que cum antea librorum iorum detestanda culpa mēdis fedissimis adeo deformia esēnt: ... [edited by Luca Pacioli].

Venetis : A. Paganius Paganinus characteribus elegantissimis accuratissime imprimebat, 1509, 144p.; 30cm.

◇レオナルドと“神聖なる比”（黄金比）

パチョーリの著作『神聖比例論』は1498年ミラノにて手稿本が完成されたとする。その後、『神聖比例論』は1509年にヴェネチアにて活字本として出版された。この著作には巻末に立体の図が添えられ、この挿図をレオナルド・ダ・ヴィンチが描いたと伝えられている。なお、『神聖なる比』は“黄金比”を意味する。

パチョーリ『神聖比例論』（1498年手写本の1986年復刻版）

Luca Pacioli: De Divina Proportione, Augusto Marinoni 序文（=Fontes Ambrosiane in Lucem Editi cura et studio Bibliothecae Ambrosianae 72), Milano [Silvana Editoriale], 1986. (平野葉一所蔵)



右：表紙ページ
左：最初の1ページ（復刻版にはタイトルページがなく、このページから始まっている）
下右：手写本に付された立体の挿絵（レオナルドによる）

ピエロ・デラ・フランチェスカの『正多面体論』（復刻版）



Piero delle Francesca: Libellus de quinque corporibus regularibus / Piero della Francesca; corredato della versione volgare di Luca Pacioli, Firenze: Giunti Gruppo, c1995, 3 v. in 1 case: ill., col. facsim. ; 33 cm.

VI. レオナルド・ダ・ヴィンチの『絵画論』と遠近法

VI-1. 『絵画論』 Libro di Pittura

◇レオナルド・ダ・ヴィンチは生涯の間に著作を出版することはなかったが、水、人体、幾何学など、いくつかのテーマに関する書物を構想していたことが「手稿」から推察される。なかでも『絵画の書』Libro di Pitturaの構想は早くからあり、「手稿」中には絵画に関する折々の考えや発見、アイデアの変遷が遺されている。数学者ルカ・パチョーリの証言によれば、1490年代の第一次ミラノ時代には、今日「スフォルツァ絵画論」と呼ばれる本を書き上げたともされるが、結局、生存中の刊行をみることはなかった。

◇現在広く知られている「絵画論」とは、レオナルドの死後、全ての「手稿」を相続した弟子のフランチェスコ・ダ・メルツィの手によってまとめられたものである。メルツィは手稿を携えて故郷ヴァープリオに帰国し、通称「絵画論」を編集した。これは今日ではヴァチカンの教皇図書館に所蔵され、「ウルビノ稿本」、すなわち“Codex Urbinas Latinus 1270”、あるいは“Codex Vaticanus 1270”と呼ばれている。



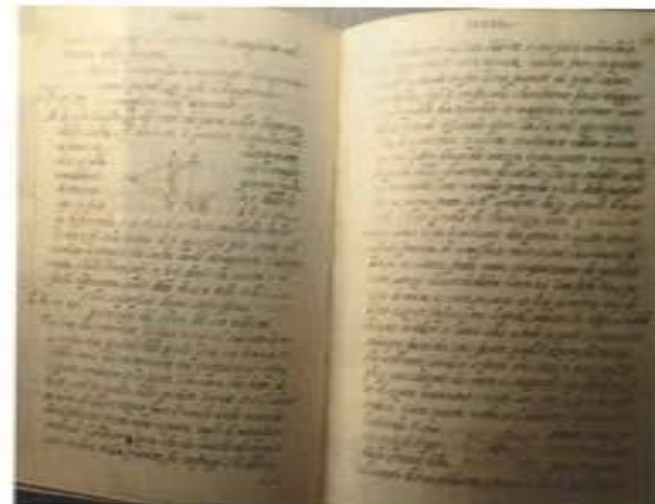
Libro di Pittura: edizione in facsimile del Codice Urbinatense lat. 1270 nella Biblioteca apostolica vaticana. Leonardo da Vinci; a cura di Carlo Pedretti; trascrizione critica di Carlo Vecce: [facsimils], [commentary]. - Facsim. Italian [limited] ed. - Giunti, 1995.

◇「ウルビノ稿本」はおおよそ20.4×15.0cm、約331紙葉から成り（ただし白紙や紛失箇所を含む）、最初のページには「フィレンツェの画家・彫刻家レオナルド・ダ・ヴィンチ先生による絵画の書」と記されている。末尾には転写に用いられた「手稿」全18冊が挙げられているが、現存するのはそのうち8冊とウィンザー紙葉1枚のみである。

◇稿本は八書から成る。各書冒頭には以下のタイトルが掲げられている。

- 第一書 詩と絵画について (De Poesia et Pittura)
- 第二書 画家のための教則について (De Precetti del Pittore)
- 第三書 [欠] *題はないが、「人体のポーズと運動」を主に扱う
- 第四書 衣裳について (De Panni)
- 第五書 影と明るさについて (De Ombra e Lume)
- 第六書 草木について (D'Alberti et Verdure)
- 第七書 雲について (De Nuvoli)
- 第八書 地平線について (Del' Orizzonte)

このうち、第一書は後に「諸芸術比較論」(Paragone)と呼ばれ、レオナルドによる諸芸術、諸学問の優劣比較論が展開される。レオナルドは「絵画」は遠近法論や幾何学を要する、まさに学問たるにふさわしい営為であるとの信念を持っていた。レオナルドの手稿や「絵画論」には、人間の視覚や幾何学、あるいは自然に対するさまざまな研究成果や考察が反映されている。また、第二書は画学生に求められる資質など精神論を含み、画家は孤独や勤勉を要求される。そして第三書から第八書までは、絵画の制作に関わる実践的な内容を扱うものである。



VI-2. 遠近法

◇美術における遠近法 Perspective とは、二次元の平面上に三次元の世界を再現する体系的作図法全般を指し、さまざまな種類がある。その試みはすでに古典古代に見出されるが、近代的な意味での遠近法の歴史は、一般に13世紀末から14世紀にかけてのイタリアに始まるとされる。ジョット (Giotto di Bondone, 1267頃-1337) らの模索を経て、15世紀初頭にはブルネレスキ (Filippo Brunelleschi, 1377-1446) やアルベルティ (Leon Battista Alberti, 1404-1472) によって遠近法の理論的基礎が固められる。これは「人工的遠近法」prospettiva artificiale と呼ばれ、アルベルティの著作『絵画論』(De Pictura/Della Pittura, 1435/1436) は続く盛期ルネサンスの画家たちに大きな影響を及ぼすことになる。

◇ピエロ・デラ・フランチェスカ (Piero della Francesca, 1416頃-1492) は遠近法のより厳密かつ高度な理論化を果たした。数学者としても知られ、3つの数学的著作『算術論』(Trattato d'abaco), 『遠近法論』(De prospectiva pingendi), 『五つの正多面体論』(De quinque corporibus regularibus) を遺した(p.31参照)。また、その弟子である数学者ルカ・パチョーリ (Luca Pacioli, 1445頃-1517) はレオナルドの親しい友人でもあった。

◇レオナルドは先人たちの成果を受け、みずからも遠近法の研究に熱心に取り組んだ。「絵画論」では、いわゆる線遠近法 Linear perspective のみならず、対象となる物体の輪郭の明瞭度や色彩によって得られる空気遠近法 Aerial perspective についても探求している。またアトランティコ手稿中には、線遠近法的な画面を構成するための一種の作図器具の素描がある。



「遠近法作図器」を用いて素描する人
*『アトランティコ手稿』
第I巻 紙葉 5Recto



遠近法作図器
再現模型
*手前の板に空けられた穴から片目で覗き、格子状の枠に照らし、対象をみえたとおりに写し取る。
線遠近法的な画面を容易に構成するための作図器である。

◇1481年にレオナルドは『東方三博士の礼拝』を手掛けた。作品は未完に終わったが、十数点の習作が現在ウフィツィ美術館に所蔵される。下の素描は線遠近法を用いて描かれた、背景の廃墟の習作である。レオナルドの緻密な構想の一端がうかがわれる。



「東方三博士の礼拝」背景素描
("Perspective Study for the Background of the Adoration of the Magi")
1481年, 165×290mm,
Galleria degli Uffizi, Gabinetto dei Disegni e delle Stampe, Inv. 436E r.

*レオナルドの素描作品はウィンザー王室図書館、ウフィツィ美術館のほか、大英博物館、アカデミア美術館等にも所蔵される。上の作品はウフィツィ美術館所蔵の素描を集めた『レオナルド・ダ・ヴィンチおよびレオナルド派素描集』(I disegni di Leonardo da Vinci e della sua cerchia nel Gabinetto disegni e stampe della Galleria degli Uffizi a Firenze / ordinati e presentati da Carlo Pedretti; catalogo di Gigetta Dall'i Regoli. Japanese ed. Tokyo: Iwanami, 1986.)からの一点である。

◇ドイツ・ルネサンスを代表する画家アルブレヒト・デューラー (Albrecht Dürer, 1471-1528) は、ドイツの職人的伝統の中で育ちながら、イタリア・ルネサンスの合理主義的な芸術観に深く共感した一人であった。デューラーはレオナルドと同様、エウクレイデスやウィトルウィウスら古典を学び、3冊の理論的著作『測定法教則』(Unterweisung der Messung, 1525), 『築城論』(Unterricht zu Befestigung der Stadt, 1527), 『人体均衡論四書』(Vier Bücher von menschlicher Proportion, 1528)を公刊した。このうち『測定法教則』は広く造形活動に関わるドイツの職人や芸術家のために書かれた幾何学に関する著作である。全四書構成で、第四書の後半に遠近法論がある。



Albrecht Dürer: Unterweisung der Messung mit dem Zirkel und Richtscheit, Dietikon-Zürich, Stocker-Schmid, 1966. 220 p. illus. 31 cm.

左の図では、画家は可動式の照尺から描写する対象を覗き、間に置かれたガラス板に対象を示す各点を写し取っている。これはレオナルドのスケッチに示された方法と同じ原理であり、15世紀のイタリアの工房で実践されていたと考えられる。

右の図では、まず壁に視点を意味する釘が打ち込まれ、そこから長い糸が延ばされ先端には鉄棒が取り付けられる。中央には開閉式の扉(これが画面となる)を備えた木の枠が置かれ、この枠の上縁と側縁の中央には糸が釘で固定される。協力者が描写対象(図ではリュート)の一点を鉄棒で指し、画家は枠の糸2本をぴんと張り、視点から張られた糸との交点を求める。その上で協力者が扉を閉じ、扉にその点を記すのである。この複雑な方法はデューラーの創案によるものとされる。『測定法教則』第二版には、さらに別の2方法も提示される。

VII. レオナルド・ダ・ヴィンチとレオナルド・フジタ

◇レオナルド（・ルネ・フランソワ・ツグハル）・フジタとは誰か

日本名、藤田嗣治は、20世紀の世界を舞台に、国際的に活躍した画家である。第一次大戦後は乳白色の下地の裸婦を描きエコール・ド・パリの寵児となった。第二次大戦下では、日本で戦争記録画の第一人者であった。

晩年のフジタは、子どもや母子像、宗教画を描き、礼拝堂を手がけた。現在のフランスでは西洋美術と日本美術の統合を成し遂げた日系フランス人画家・芸術功労者として高く評価されている。

◇略歴

- 1886年（明治19年）11月、現在の東京都新宿区に生まれる
- 1910年（明治34年）東京美術学校西洋画科、卒業
- 1913年（大正02年）渡仏の翌年、第一次世界大戦が勃発
- 1921年（大正10年）サロン・ドートンヌに《裸婦》を発表
- 1925年（大正14年）レジオン・ドヌール勲章等受章
- 1931年（大正06年）中南米を経て2年後日本に戻る
- 1939年（昭和14年）再渡仏したが、第二次世界大戦勃発
- 1941年（昭和16年）太平洋戦争勃発
- 1943年（昭和18年）《アッツ島玉砕》他多くの戦争画を描く
- 1945年（昭和20年）8月終戦 日本画壇との軋轢で苦しみ
- 1949年（昭和24年）アメリカに向かい、翌年フランスに入国
- 1955年（昭和30年）フランス国籍取得
- 1958年（昭和34年）カトリックに改宗
- 1961年（昭和36年）第一回「国際宗教美術展」金賞受賞
- 1966年（昭和41年）「平和の聖母礼拝堂」完成
- 1968年（昭和43年）1月、チューリッヒで死去（享年81）



◇洗礼名レオナルドの由来

フジタ研究の第一人者林洋子氏によれば、フジタは「自ら望んで」洗礼名をレオナルドとすることを願い、教会から許可された。

カトリックへの改宗を機に、敬愛するルネサンス絵画の大巨匠であるレオナルド・ダ・ヴィンチを、自分の画業の集大成をやり遂げるための精神的拠りどころとしたと考えられる。いわば、レオナルドを名乗ることで、晩年における異国での画家人生に背水の陣をしいたのであろう。

（注）フランス語では「レオナル・フジタ」と呼ぶが、本稿ではレオナルド・ダ・ヴィンチとの対比で敢えて「レオナルド・フジタ」と記す。



◇レオナルド・ダ・ヴィンチとレオナルド・フジタの《最後の晩餐》に関する一考察

1 レオナルド・フジタの《最後の晩餐》1966年

セミドーム R125 フレスコ 平和の聖母礼拝堂 ランス、フランス



フジタは3度ミラノを訪問し《最後の晩餐》に強い感銘を受け、豪華解説本を購入して自分の制作に役立てた。当初はレオナルドの下絵デッサンのように、イエスの左手に眠るヨハネを描きこんであったが、13人の使徒を描いたことに気づき消したという事実がある。ユダの位置はほぼ同じだが、ポーズは異なる。全体の状況描写もユダ以外の使徒たちが事の重大さに気づく瞬間の、時が止まったような状態を描いているようだ。フジタは、レオナルドの使徒たちの心理状態を示している手の表現に着目し、礼拝堂内の他のフレスコ画にも採用しているように見受けられる。

2 レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》1495-98年

460×880 漆喰にテンペラと油彩、セッコ・フレスコ

サンタ・マリア・デッレ・グラーツィエ修道院聖堂 ミラノ、イタリア



レオナルドは《最後の晩餐》に関する多くのデッサンを残している。手稿の中ではそれぞれの人物設定についても述べているが、登場人物の心理的な動揺を大きな動作や特に手の表情で劇的に表現している。使徒たちのざわめきや、怒り、心の動揺までが見ているものに伝わるドラマチックな瞬間をダイナミックに描いている。科学的な観察と構図の巧みに裏付けられたデッサン力の素晴らしさが、感動的な場面を作り上げている。手の表現の多様さは他の作品にも十分に窺え、画家の意図と謎めいた魅力を発散している。

*図版出典一覧（最終確認2019.12.17）

ランス大聖堂での受洗；<https://art-culture.world>

《ジュイ布のある裸婦》；japonismes2018

《アッツ島玉砕》；https://media.thisisgallery.com/works/foujita_02

平和の聖母礼拝堂；筆者撮影 《最後の晩餐》；ランス市美術館提供

レオナルド・ダ・ヴィンチのデッサン；<https://madamefigaro.jp> 《最後の晩餐》部分；<https://ja.wikipedia.org>

◇あとかき～500年の時を越えて◇

レオナルド・ダ・ヴィンチってどのような人物でしょうか。芸術家，科学者，技術者，発明家？ こうした形容のどれもが正しく，それでいて必ずしも的確とはいえない—そうした存在がレオナルドなのではないでしょうか。

レオナルドが絵画を描くとき美はどこに見出されるのか，彼が自然を見つめるとき真実とは何であるのか—おそらくは美は描く対象の深淵なる奥底に，真実は観る自然を越えた遥か向こう側に潜んでいて，それらから何かを少しずつ暴き出して精神の内部でつなげる，それがレオナルドが自らに求めた使命だったのではないのでしょうか。レオナルドの手稿は，そうした世界を彷徨する彼自身の苦悩と喜び，その所産としての総合された人文知の表出であると感じられます。

レオナルドのそのような精神，意識は，自らをさまざまな古代の知や術へと誘い，数学者ルカ・パチョーリと巡り合わせ，人間の身体内部の神秘に向き合わせたことができます。そこには，まさに理性と感性，知と美のつながりが見て取れます。そして，彼が残した余韻は後の人々の心をも揺さぶり，その影響を受けた一人がレオナール・フジタであったでしょうし，その余韻は500年の時を越えて私たちにもなお語りかけています。

今回の展示の趣旨は，レオナルドの精神の結晶ともいべき手稿の一端を，皆さんのそれぞれの経験知に応じてご覧いただくことでした。皆さんのそれぞれが何らかのメッセージを感じとっていただけたのであれば幸いです。

2019年12月

全体責任者 平野 葉一

東海大学附属図書館第69回展示会

レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500年記念

「つながり合う知と美—甦るレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿—」

■共催 東海大学大学院文明研究専攻
東海大学文明研究所
東海大学附属図書館

■全体責任者・監修 平野 葉一（東海大学文学部文明学科，文明研究所）

■企画・展示責任者 中村 朋子（東海大学現代教養センター）

■企画・展示

東海大学大学院文学研究科／文学部

文学部平野研究室

吉岡 泰子（東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期）

安達 未菜（東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期）

岡山 奈央（東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期）

友保 諒（東海大学文学部ヨーロッパ文明学科）

高草木 秀（東海大学文学部ヨーロッパ文明学科）

東海大学附属図書館中央図書館

葉山きい子

■ポスター・デザイン 中村 朋子（東海大学現代教養センター）

■図録編集 平野 葉一（東海大学文学部文明学科，文明研究所）

中村 朋子（東海大学現代教養センター）

成田 広樹（東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科）

図録執筆担当 I，II，V 平野 葉一（文学部文明学科）

友保 諒・高草木 秀（文学部ヨーロッパ文明学科3年次）

III，IV，VI 中村朋子（現代教養センター）

VII 吉岡泰子（文学研究科文明研究専攻博士課程後期）



東海大学付属図書館 第 69 回展示会

東海大学 湘南校舎 付属図書館展示室 (11 号館 1 階)

2019 年 12 月 18 日 (水) ～ 2020 年 3 月 19 日 (木)

* 日・祝閉室 [12/27 (金) -1/5 (日) 閉室]

月～金 9:00～17:00/土 9:00～16:00

主催・監修 東海大学文学研究科平野研究室 (文明研究所)

共催 東海大学付属図書館

TEL: 0463-58-1211(内線 2722) <https://library.time.u-tokai.ac.jp/>